

広報で振り返る八幡平市



広報はちまんたい No.34
(平成19年2月15日号)

旧松尾村と友好都市提携していた沖縄県名護市。合併後もより一層の交流を深めようと、第45回名護さくら祭りにて、あらためて友好都市の締結を行いました。



広報はちまんたい No.28
(平成18年11月16日号)

平成18年11月3日、市勢功労者表彰、市民憲章制定・推進大会を開催。まちづくりの指針となる市民憲章と市のシンボルとなる花鳥木として、リンドウ、ヤマドリ、アカマツの制定を発表



広報はちまんたい No.1
(平成17年9月15日号)

広報はちまんたい創刊号。開庁式でくす玉を割った児童・生徒3人の姿が表紙を飾りました。



広報はちまんたい No.125
(平成23年4月7日号)

平成23年3月11日金午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とする東日本大震災が発生。市内では最大震度5を観測。沿岸への支援物資として、市民の皆さんからは米が提供されました。



広報はちまんたい No.209
(平成26年12月4日号)

平成26年11月25日、市役所新庁舎の開庁式を挙行。合併協定に盛り込まれていた新庁舎と多目的ホール棟の完成・使用開始は、合併の集大成であるとともに、八幡平市の新たな出発点にもなりました。

また、12月25日には西根バイパスが全線開通。27年3月14日には、庁舎隣にJR花輪線北森駅が移設、使用が開始され、交通の利便性も高まりました。



広報はちまんたい No.192
(平成26年3月6日号)

田山出身の永井秀昭さん(岐阜日野自動車(株)所属)が、ソチ冬季オリンピック2014ノルディック複合に日本代表で出場。安代総合支所でパブリックビューイングを実施



広報はちまんたい No.116
(平成22年11月18日号)

市民憲章推進大会で、八幡平市民歌(作詞:保岡直樹、作曲:林芳輝)を西根中2年生と西根第一中3年生が市民歌を初披露。この年から少年少女の詩「江間章子賞」授与式の併催が開始



市庁舎(現西根総合支所)で開庁式を開催。関係者のテープカットで新市誕生を祝いました(17年9月1日)

八幡平市誕生までの軌跡をたどると、平成14年までさかのぼります。前年に県から提示された合併シミュレーション案を受け、旧3町村では、広報合併特集号を発行し、地区懇談会を開催。15年5月には、旧3町村の首長による研究会が立ち上げられました。その後、研究会や会議を経て、15年11月に西根町長から松尾村・安代町に任意合併協議会設置を申し入れ、同年12月には、西根町・松尾村・安

代町任意合併協議会を設立。協議を続け、16年6月には、同協議会を解散し、西根町・松尾村・安代町合併協議会を設立し、合併に向けて本格的な協議に入りました。合併協議会は、17年7月29日までに全17回開催。第6回協議会(16年9月10日)では市の名称「八幡平市」が、第7回協議会(16年9月24日)では、合併期日を「17年9月1日」とすること、第9回協議会(16年10月15日)では、新市事務所の位置が決定されました。17年1月13日には、合併協定調印式を開催、24日には、合併申請書を県知事に提出しました。同年9月1日、現在の西根総合支所前で開庁式が行われ、「八幡平市」が誕生しました。

10周年を記念したすきつなぐ

「農と輝の大地縦断駅伝」を開催

市制施行10周年を記念した「農と輝の大地縦断駅伝」が8月14日、市内で開かれました。

駅伝は、市と秋田県境の湯瀬ドライブインを午前7時にスタート。幼児から70歳代までの市民の皆さん約100人が、各自500mから1km程度の区間を走り、次の走者にたすきをつなぎました。

時折強い雨に見舞われる天候でしたが、参加者は各自の区間



道の駅にしねにゴール

を走り抜き、5時間56分で道の駅にしねにゴール。約54kmの道のりをたすきでつなぎ、10周年の節目を祝いました。



八幡平市 市政施行10周年

農と輝の大地のあゆみ